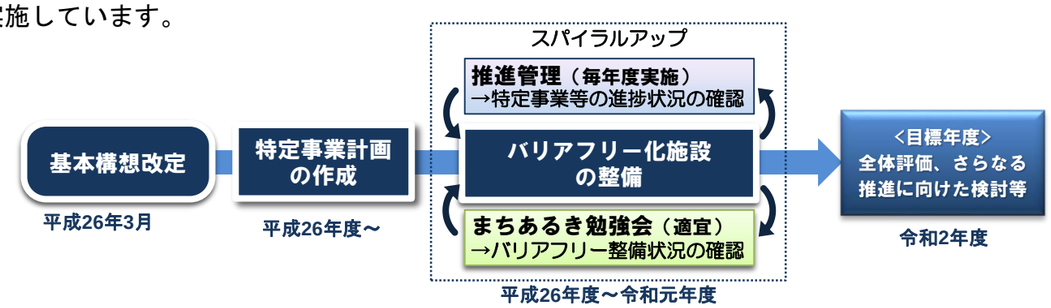
まちあるき勉強会はなぜ必要？

基本構想に位置づけた事業等のバリアフリー整備状況について、市民参加型で確認し、いただいた意見に留意した整備を行うなど段階的・継続的な取組（スパイラルアップ）を行うことで、誰もが使いやすい施設や経路のバリアフリー化を進めていくことができます。その一環として『まちあるき勉強会』を実施しています。



【確認成果の活用】

○ 課題が改善された点や整備後に新たに気づいた点などを整理し、市内のバリアフリー化に関する取組について、市民のみなさまに広く情報を発信していきます。

○ 道路管理者や事業者に、まちあるき勉強会の意見を情報提供し、できるところから改善していくとともに、とりまとめた意見を今後予定している他地域の整備でも反映できるようにします。

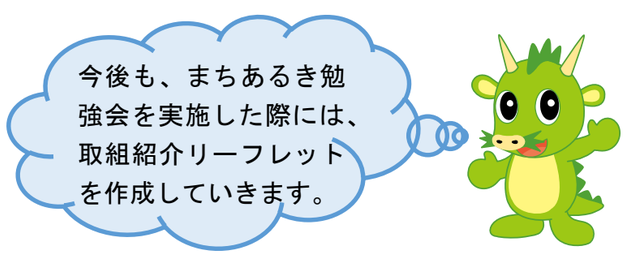
継続的な取組を進めます

市では、“みんなが創って育てるバリアフリーのまち”の実現を目指し、高齢者・障害者等の市民や事業者、学識経験者等からなる「バリアフリー専門部会」で特定事業等の進捗状況を年に１回確認します。また、継続的に『まちあるき勉強会』を実施し、バリアフリー整備状況について市民参加型で確認していきます。さらに、バリアフリーに関する周知活動も積極的に進めていきます。

ホームページで「さいたま市バリアフリー基本構想」をご覧になることができます。
さいたま市のホームページから、以下に従ってお進みください。

さいたま市のホームページ　http://www.city.saitama.jp

【閲覧手順】トップページ▷暮らし・手続き▷まちづくり・交通▷交通・道路・駐輪場▷交通政策▷さいたま市バリアフリー基本構想について



さいたま市 都市局 都市計画部 交通政策課
〒330-9588 さいたま市浦和区常盤６-４-４
電話: 048-829-1053　ＦＡＸ: 048-829-1979
e-mail: kotsu-seisaku@city.saitama.lg.jp

令和元年度　さいたま市バリアフリー基本構想　取組紹介リーフレット

資料3

（案）

Barrier Free

みんなが創って育てる バリアフリーのまちづくり

『さいたま新都心・北与野地区まちあるき勉強会』を実施しました！

令和元年度まちあるき勉強会は、「バリアフリー都市宣言」のまちとして整備され、バリアフリーの先進的な取組が進められている
<さいたま新都心・北与野地区> で行いました。

確認対象施設　**ＪＲさいたま新都心駅、歩行者デッキ、東口駅前広場、さいたま新都心ふれあいプラザ**

バリアフリー化の推進

さいたま市では、平成26年3月に改定した「さいたま市バリアフリー基本構想」に基づき、市内のバリアフリー化を進めています。

さいたま市バリアフリー基本構想では、市内のバリアフリー(※１)化の目標や事業推進の考え方を示すとともに、旅客施設を中心として高齢者や障害者等が利用する施設が集まる地区を重点整備地区(※２)に設定し、地区内のバリアフリー整備に係る具体的な事業等（＝特定事業等）を位置づけています 。

※１バリアフリー：高齢者や障害者をはじめ、妊産婦や乳幼児連れの方、けが人などが社会生活をしていく上で障壁(バリア)となるものを除去(フリー)すること

※２重点整備地区：大宮地区、北浦和地区、浦和地区、さいたま新都心・北与野地区、武蔵浦和地区、岩槻地区

さいたま新都心・北与野地区のバリアフリー整備状況とまちあるき勉強会での市民意見を紹介します！

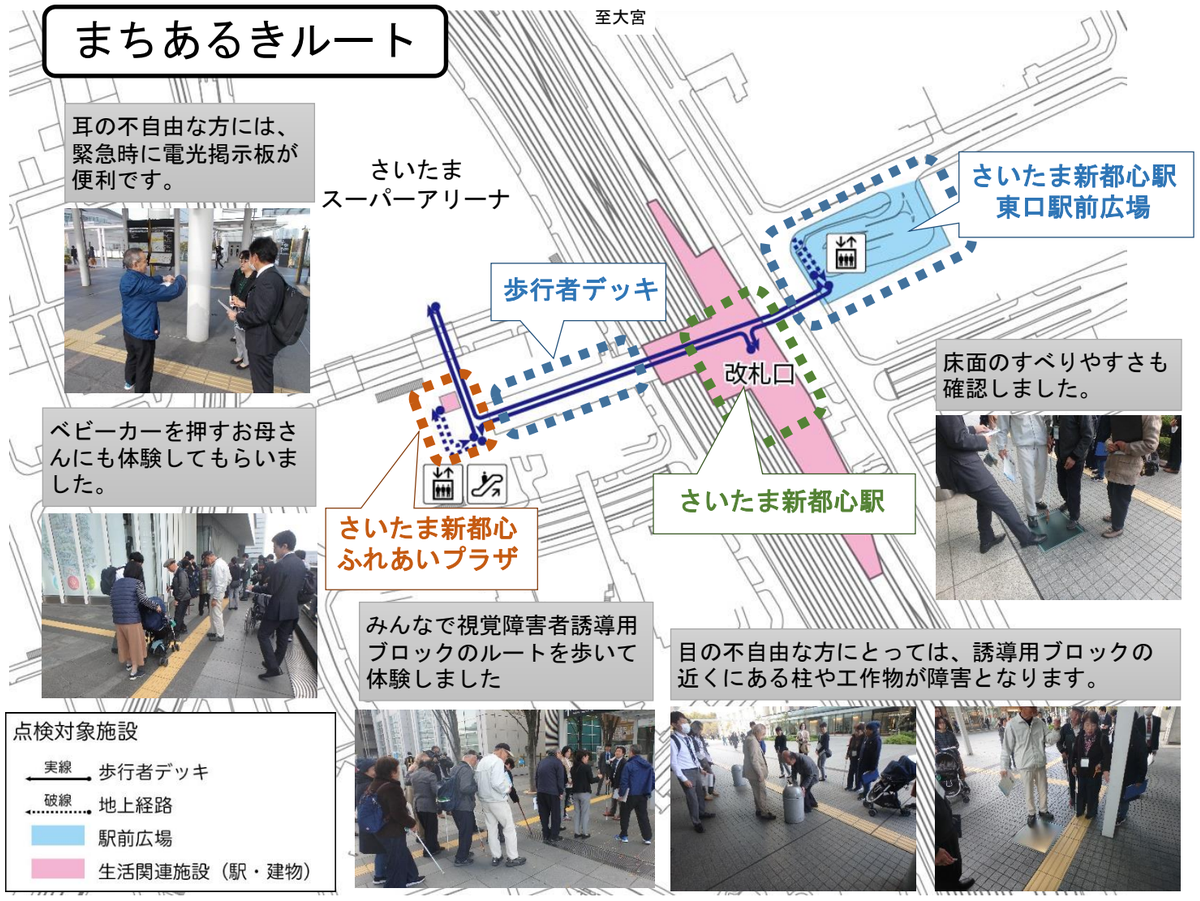
＜さいたま新都心・北与野地区まちあるき勉強会　実施概要＞
日 時 ： 令 和 元 年 １ １ 月 １ ４ 日 （ 木 ） ９ 時 ～ １ １ 時 ５ ０ 分
参加者：計２５名（高齢者・障害者・育児支援等の団体代表者、学識経験者、市職員など）
当日のながれ：　当日の概要の説明　⇒　まちあるき　⇒　意見交換　⇒　確認結果のまとめ

現地で誘導ブロックやエレベーター等、バリアフリー整備状況を確認しました。

まちあるきの結果について意見交換を行いました。

参加者全員で良い点や、気づいた点を整理して、共有しました。

まちあるきルート



さいたま新都心駅

官公庁施設の他、大型の文化・商業施設、新たな医療施設等の中心に位置する駅です。

充実した様々なバリアフリー設備

▲多目的トイレ

▲ほじょ犬トイレ

▲エレベーター

▲ホームドア（京浜東北線ホーム）

駅構内は広く、エレベーターやエスカレーター、多目的トイレやベビー休憩室に加えて、市内初の補助犬トイレなど様々な施設が充実しています。

駅構内・改札付近の施設

●：良い点　▲：気づいた点

- ● ベビー休憩室に授乳室・施錠できる自動ドア・暖房などが整備されていて、とても良かった。
- ● 改札口前の広場に大型のテレビがあり、耳の不自由な方への情報提供ができてよい。
- ▲ 耳の不自由な方には、エスカレーターでホームに降りた所やホームドア、改札口などに文字情報・電光掲示板があるとよい。

トイレ

- ● 様々な利用者に対応したトイレが整備されていてよかった。
- ● 多目的トイレが左右の障害別に用意されていて使いやすい。
- ▲ベビーチェアがトイレットペーパーの近くにあり、子供が触るので危ない。

歩行者デッキ・道路・駅前広場

まち全体が歩行者デッキのネットワークで結ばれ、エレベーターやエスカレーターなども整備されています。

現地状況

視覚障害者誘導用ブロックや案内誘導施設など、様々なバリアフリー設備がありますが、整備されてから時間が経過していることもあり、部分的な破損や色あせなど老朽化の課題がうかがえました。

歩きやすさ・安全性

●：良い点　▲：気づいた点

- ● 平坦な道が多く、子供と一緒でも歩きやすい。
- ▲ 駅へ向かう通路は緩い坂だが、距離が長いので手すりがあると助かる。
- ● 駅前広場に下るエレベーターは広く奥行きがあってよい。
- ▲ 駅前広場の階段の段鼻の黄色い表示が薄くなっていて、わかりにくい。

誘導用ブロック

- ▲ 階段上段部の一列の点状ブロックやドア手前に斜めの線状ブロックの配置などがみられた。
- ▲ JIS規格に準拠していないブロックがみられた。
- ▲ ブロックが古い型のもので、踏んでもわかりにくい。

交差点

- ● 音響信号の設備が設置されていてよい。

さいたま新都心ふれあいプラザ

ふれあいプラザでは「ボランティアマネージャー」が常駐し、新都心のバリアフリー推進活動を行っています。

●：良い点

ふれあいプラザを拠点に活動する「さいたま新都心バリアフリーまちづくりボランティア」は、新都心のまち案内、大小さまざまなイベント活動、小学生等のバリアフリー体験の補助などの活動を行っています。

ふれあいプラザの取組

- ● ベビーカーや車いすの貸出（無料）のことを知らなかった。誰もが遊びに来やすくなる。
- ● ボランティアの方々の取組や情報発信は、とても良いと思う。